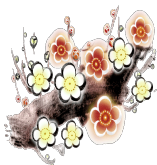


セミナー通信

教育実習総合センター



2月

10月14日から始まった論作文指導も2月8日をもって終了しました。その間、論作文のテーマと真剣に向き合ったり、友達と意見交換をしたりと、とても貴重な学びとなったようです。そこで、頑張った論作文に取り組んだ二名の感想を載せていきますので、ご覧ください。

論作文を終えて

小論文指導は、最初週2回もあり、「疲れるなあ」と思っていました。ですが、今となっては、それほど負担でもなく、かえって大切な宝物となっていました。また、少人数指導では私の知らない事や他の人の意見を聞くことができ、知見も広がりました。特に気になる名称については、すぐ調べる習慣が身に付きました。道徳では、実践の話も聞きました。道徳の時間のイメージが持てました。また、友だちの小論文から具体例や体験を入れることで説得力が増すことが分かり、自身も取り入れました。その他、ここで書ききれないことをたくさん学べた後、セミナーでした。



私は、このセミナーを受けるまで、論文文に対して強い苦手意識がありました。話すことや手紙を書くことは好きなのに、「論文を書く」というと思うとなかなか手が進まない状態でした。しかし、このセミナーで論文文を書いて先生に見て頂き、それを基に人と意見交流をするところが、徐々に楽しいと感じるようになり、グループ編成上、最初の頃は一対一で先生に指導して頂く指導のおかげで、やる気が出て回る重なる毎に自信も力もついてきたように思います。後半は、他のグループと合流。経験も立場も違うからこそ出る様々な意見を聞くことができ、大変勉強になりました。

授業実践開発コース

「課題解決研究 最終発表会」から2月11日・12日の二日間にかけて、課題解決研究最終発表会が行われました。現職教員に混じって、足立快斗、阿部千翠、池田智弥、石橋皓一朗、井原貴幸、上赤坂菜央、内村知也、太田昌吾、小坂幸弘、坂井詩歩、菅河晃太郎、津乘晴子、藤本真司のストリート院生13名（敬称略）が発表しました。院生の総勢70名が集い、発表学校、高等学校、中学校、高等学校に、おいて自分の研究課題に対して理論と実践の往還を図りながら深めてきた二年間の研究の集大成が報告されました。



発表に続き、フロアからは、質疑や研究成果を尊ぶ声が飛び交い、緊張の中にも研究の醍醐味を共有することができた発表会となりました。

教員採用試験 対策

時事問題に関心をもとう

平成27年12月21日、中央教育審議会が文部科学大臣に3答申を提出。その一つに「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて「時代が求め、左記の内容が書かれています。」(一部省略)

- ・アクティブ・ラーニングの視点から、小学校における外国語教育の早期化・教科化・ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量。
- ・「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力。

☆時事問題は、筆記試験だけでなく、面接でも聞かれることがあります。例えば、「18歳選挙権」「伊勢湾サミット」等にも関心を持ち、自分なりにまとめておきましょう。

ワンポイントアドバイス

「いじめ」問題について 「予防・対応」の一例

押さえておくべき安心なポイント

- 「いじめ防止対策推進法」の条文の内容を確認
- ・ 目的、いじめの定義等
- いじめの「予防」と「対応」のあり方を整理
- ・ 担任としての取組の具体策

現場に役立つ予防策の例

教師の鋭い観察力・洞察力で「いじめ」は予防できます。その一つが次の様な変化です。

環境の変化

- ・ 机や掲示物に変化（離されたり、落書き・破損）
- ・ 持ち物の変化（筆記用具等が隠されたり、落書きがある）
- ・ 机の上や黒板に冷やかし・落書き

子どもの変化

- ・ 顔色が悪く、元気がない
- ・ 遅刻や欠席が増える。特に、専科の授業は要注意
- ・ 一人で行くことが多い、特定のグループによる密談が目につきます
- ・ 紛失物・忘れ物が増える

もし、変化に気づいたら...

おかしいと思ったらすぐに相談しましょう。その日、その時に動くことが、第一。

学校には、学年主任、生徒指導主任、養護教諭、スクールカウンセラーそして教務主任等々がいます。一人で抱え込まないことが早期解決の第一歩。

そして、管理職に報告をすることも忘れないようにしましょう。

☆特に、この四月から現場に出る皆さんもぜひ参考にしてください。



教員採用試験情報

(文科省の調査より)

教員採用試験の実施方法について

昨年実施された平成28年度公立学校教員採用選考試験の実施について、文部科学省の調査が出されました。

平成29年度受験にあたり、この調査結果を踏まえ、しっかりと教採対策をしていくことが必要です。

☆調査結果のポイントから一部抜粋 大学院在学者・進学者に対する特例

○ 教職大学院修了者を対象とした特別の選考を4県市（5県市）で実施。

○ 教職大学院を含む大学院在学や進学を理由に採用を辞退した者に対して、57県市（52県市）が、採用候補者名簿登載期間の延長や次年度以降の一部試験免除・特別の選考など、特例的な措置を実施。（カッコ内は前年度の数値）

特に大学院在学者・進学者に対する特例については、各県市により、特例の資格要件や内容が異なるので、詳細を「募集要項」で必ず確認すること。

※詳しくは、文部科学省ホームページで確認できます。

教員採用情報 (神戸市)

28年度実施から

教員採用選考が変更

- 「第1次選考免除」の対象を拡大
- 「教職・一般教養」「一般教養」の内容が変更
- ※今までと大きく変わり、「一般常識」と「時事問題」を中心に出現
- 「中高区分」を高等学校教諭免許状だけでも受験可
- 「英語」の資格等による加点制度の拡充

※詳しい情報は、神戸市教育委員会ホームページを見て、自分自身で確かめておきましょう。

P2

実習校訪問

(敬称略)



山口 晶

西村 美紀

戸田 祐太

木村 芽依

藤嶋 美咲

清水 大有

有田 舞子

岡本 駿也

鈴木 喜子

田村 美香

田中 惣一郎

小柳 優紀